

学科名	電気通信工学科・建築・デザイン学科・情報学科							
科目名	環境学入門							
科目区分	人間形成科目	単位数	2	開講時期	2/3年前期			
必修・選択の別	必修科目(組み込みシステムコース)／選択科目(電気エネルギーコース)／選択科目(情報システムコース) 必修科目(建築工学コース)／選択科目(建築コース)／選択科目(デザインコース) 必修科目(ネットワークコース)／選択科目(ソフトウェアコース)							
担当者	依田 浩敏							
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境汚染と地球温暖化を中心とする地球環境問題の現状を説明できる。(A2) ・身近な問題から地球規模まで、全ての環境問題が現在の消費型社会経済システムと結びついていることを説明できる。(A2) ・消費型から循環型へ社会経済システムの転換に必要な考え方を、環境倫理学や環境経済学の視点から説明できる。(A2) 							
日程と内容	4/9 導入講義、持続可能な社会に向けて 4/23 地球人としてのわたしたち(わたしたちの地球と自然環境) 4/30 地球人としてのわたしたち(環境問題の実態1) 5/7 地球人としてのわたしたち(環境問題の実態2) 5/14 地球人としてのわたしたち(環境問題の実態3) 5/21 環境と経済・社会(環境をめぐる世界の動き) 5/28 環境と経済・社会(環境と社会) 6/4 環境と経済・社会(環境と経営) 6/11 環境と経済・社会(環境と商品) 6/18 わたしたちの暮らしと環境(個人の暮らしと環境問題、豊かな食事と環境の関係) 6/25 わたしたちの暮らしと環境(自然と共生した住環境) 6/25 【補講】わたしたちの暮らしと環境(生活と環境) 7/2 環境と共生するために、環境・循環型白書 7/9 定期試験に向けた総合演習と解説 7/16 定期試験(90分) 7/23 レポート課題(環境に関する文献調査)							
成績評価基準	定期試験	60%	実技	0%	臨時試験	0%	部外評価	0%
	報告書・レポート	10%	プレゼンテーション	0%	課題	0%		
	演習	30%	計	100%				
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境汚染と地球温暖化を中心とする地球環境問題の現状を説明できる。:達成した ・身近な問題から地球規模まで、全ての環境問題が現在の消費型社会経済システムと結びついていることを説明できる。:達成した ・消費型から循環型へ社会経済システムの転換に必要な考え方を、環境倫理学や環境経済学の視点から説明できる。:達成した 							
反省点	7月に実施された環境社会検定合格を目指したが、受験申し込みは19名(E:1名,A:11名,J:7名)、うち受験者 18名(E:1名,A:10名,M:7名)、合格者4名(A:4名)という結果であった。受験生を対象とした特別補講を実施したが、昨年度より合格率が下がり、効果は少なかったようである。菅野先生担当の講義との整合性、事前打ち合わせが図られていなかった。							
来年度の計画	今年度はJABEEコースのある学科を担当したが、単に単位がとれば良いという学生と、環境社会検定を受験し合格したいという意欲のある学生のどちらに照準を合わせるべきか検討していく。環境社会検定を受験し、合格する学生を増やしていく。							
授業評価アンケートに対するコメント	テキストがエコ検定の公式テキストであり、内容が濃いものであるため、限られた講義時間では十分に教えることが難しかった。そのことが総合点に出ていると思われる。講義以外に予習復習が必要であることを周知し、そのための資料も作成したが、十分に活用されていなかった。検定試験を受験し合格することを目標にする学生と、単に単位取得を目的とする学生と分ける必要があるかもしれない。							
履修登録者数	103名	定期試験 受験者数	99名	合格者数	94名	合格率	95%	